

請求信函文章結構之中日對照研究

本間美穗

銘傳大學應用日語學系講師

摘要

本研究以台日大學生寫給長輩的請求信函為研究對象，主要分析在中文和日文較慎重的請求信函裡，所需具備的基本構成要素及文章展開結構之差異，並探討其背後所隱含的文化因素。分析結果如下：

- (1) 日文與中文較慎重的請求信函中，呈現出「開頭應酬語→自我介紹→理由說明→請求→結尾語」的共通結構。
- (2) 日文與中文請求信函主文的基本展開結構中，雖然核心的共通部分為「理由+請求」，但在文章展開結構中，日文為「【預告請求】→【提示理由】→【表達顧慮(道歉型)】→【請求】→【表達顧慮(道歉型)】→【再次請求】」；中文為「【提示理由】→【請求】→【事先表達感謝】」，呈現出明顯的差異。
- (3) 日文與中文在請求策略的選用上，分別受到日本文化中的「辨別」和「負債」之概念，與中華文化的「關係」和「人情」的概念所影響。

關鍵字：請求信函，中日對照，文章結構，禮貌策略，文化因素

受理日期：2015.03.10

通過日期：2015.05.22

A Comparison Study of the Structure of Request Letters in Chinese and Japanese

Homma Miho

Lecturer, Dept. of Applied Japanese, Ming Chuang University

Abstract

The purpose of this study is to analyze the differences between the Chinese and the Japanese formal request letter structure, and to explore the implicit cultural factors of Chinese and Japanese request behaviors of research participants. The result of this study can be summarized in three main elements. (1) The mutual structure of both formal request letters was “greeting →self-introduction →explanation →request →closing sentence & ending” (2) Though the core mutual parts in the structure of both request letters are the “explanation & request”, the procedure of a Japanese request letter is usually presented “preliminary notice of request →explanation →consideration expression →request →consideration expression →re-request”, while the Chinese one starts with “explanation →request →preliminary expression of appreciation.” Obviously both express themselves differently. (3) The Chinese and the Japanese participants apply different strategies in their request letters. The Japanese are influenced by their core concepts/values of “wakimae” and “fusai”, while the Chinese “guanxi” and “renqing”.

Keywords: the Letter of Request, the Comparison Study in Chinese and Japanese, the Letter Structure, the Politeness Strategy, the Cultural Factor

依頼の手紙文の文章構造に関する日中対照研究

本間美穂

銘傳大学応用日本語学科講師

要旨

本稿では、日台の大学生が目上の人宛に書いた依頼の手紙を分析し、日中両言語の丁寧な依頼の手紙文を構成する基本要素と文章の展開構造の異同、そして、その背後にある文化的要因について考察した。結果は以下の通りである。

- (1) 日中両言語の丁寧な依頼の手紙文の大まかな流れには、「初めの挨拶→名乗り→理由→依頼→終わりの挨拶」という共通部分がある。
- (2) 主文の基本的な展開構造については、両言語とも「理由＋依頼」を核としている点は共通しているが、日本語は「【依頼予告】→【理由提示】→【配慮（詫び・恐縮型）】→【依頼】→【配慮（詫び・恐縮型）】→【懇願】」、中国語は「【理由提示】→【依頼】→【先行感謝】」という展開で違いが見られる。
- (3) 日本文化の「わきまえ」と「負債」の概念、中華文化の「関係」と「人情」の概念が、それぞれの言語の依頼ストラテジーの選択・使用に深く影響を及ぼしている。

キーワード：依頼の手紙文、日中対照、文章構造、ポライトネス・ストラテジー、文化的要因

依頼の手紙文の文章構造に関する日中対照研究

本間美穂

銘傳大学応用日本語学科講師

1. はじめに

自分のために相手に何かを頼む「依頼」は、様々な言語行動の中でも特に人間関係に摩擦を生じさせやすい。そこで、我々は相手の感情を害さずに快諾を得ようと、これまでに身につけた言語行動規範、多くの場合は母語の語用論的規範に沿って人間関係や依頼内容に適した言語形式を選択し、様々な方略を駆使する。そのため、第二言語の学習者が接触場面における依頼で母語話者と適切で円滑なコミュニケーションが行えるよう、教師は、学習者の母語と目標言語の依頼行動の特徴と異同、及びその背後にある文化的価値観や思考様式を十分理解し、それらの知識を指導に応用していかなければならない。本稿ではこのような考えに基づき、日台の大学生が書いた疎遠になっている恩師宛の身元保証人依頼の手紙文から、日中両言語の手紙文における丁寧な依頼の仕方を分析して異同を明らかにすることを主な目的とする。

2. 先行研究

まず、本稿で分析枠組みに援用する Brown and Levinson (以下、B&L) (1987) の「ポライトネス理論」(Politeness Theory) について簡単に紹介する。同理論は、「フェイス」(Face) という鍵概念を基盤に構築されている。フェイスとは他者との人間関係に関わる基本的欲求であり、他者に好ましく思われたいという欲求の「積極的フェイス」(positive face) と他者に邪魔されたくないという欲求の「消極的フェイス」(negative face) の 2 種類に分けられる。そして、この 2 種類のフェイスを脅かす行為を「フェイス侵害行為」(face

threatening act: FTA) といい、こうした行為をせざるを得ない時、相手の「フェイス侵害度」¹を軽減するための言語行動である「ポライトネス・ストラテジー」(politeness strategy)²がとられる。B&L (1987) では、下記表 1 に示す 4 つの主要ストラテジー³とそれらの下位ストラテジーを挙げている。

表 1 B&L (1987) のポライトネス・ストラテジー

主要ストラテジー	定義
1. あからさまに (baldy)	FTA を補償行為をせず明示的に行う。
2. 積極的ポライトネス (positive politeness)	FTA を相手の積極的フェイスに配慮する補償行為をして明示的に行う。「相手 (の興味・欲求・必要・所有物) に気づき、注意を向ける」など下位ストラテジー 15 種。
3. 消極的ポライトネス (negative politeness)	FTA を相手の消極的フェイスに配慮する補償行為をして明示的に行う。「慣習に基づき間接的に伝える」等下位ストラテジー 10 種。
4. ほのめかして (off record)	FTA を非明示的に行う。「ヒントを与える」など下位ストラテジー 15 種。

次に、依頼の手紙文に関する日中対照研究には、楊・岡田 (2003)、楊 (2009) がある。楊・岡田 (2003) は、談話完成テストにより収集した日中の大学生が親しくない同級生に依頼する手紙を分析し、①日中とも「同・疎」の相手には間接

¹ B&L (1987:76) は、行為 x のフェイス侵害度は、自分と相手の社会的距離と力関係、行為 x のその文化における負荷度の 3 つの要素が加算的に働いて決まるとしている。

² 宇佐美 (2002:102) は、B&L の「ポライトネス」は「円滑な人間関係を確立・維持するための言語ストラテジー」と定義されるとしている。また、滝浦 (2008:29-32) は、B&L の「ポライトネス」とは「主として相手のフェイスを侵害することに対する軽減的・補償的な言語的配慮」、「ストラテジー」とは「ポライトネスが表現・伝達される具体的な手段」のことであるとしている。

³ B&L (1987:68-71) では、FTA を行う時、本稿表 1 に示した 4 つの主要ストラテジーのどれを選択するかは、相手のフェイス侵害度により決定されるとしている。表 1 の各主要ストラテジーにつけられた 1~4 の番号はフェイス侵害度に対応しており、フェイス侵害度が大きいほど大きい番号のストラテジーが選ばれるという。

依頼表現を多用する、②日本人は【配慮（詫び・恐縮型）】⁴などの消極的ポライトネスを、中国人は【先行感謝】などの積極的ポライトネスを多用する傾向があると報告している。一方、楊（2009）は、日中の学生と社会人が実際に書いた依頼メールを収集し、それらを依頼内容の負担度で分けて分析し、①日本語メールの方が【配慮（詫び・恐縮型）】と【懇願】を多用し、負担度により依頼表現を使い分ける傾向が顕著である、②中国語メールでは日本語メールには使用例のない【先行感謝】が観察され、依頼内容の負担度が大きい場合でも直接依頼表現がかなり使用されていると報告している。

以上は、日中両言語の手紙文における依頼のストラテジーの異同を明らかにしようとしたものであるが、依頼の手紙文に関する日中対照研究は、会話を扱った研究に比べてまだ数が少なく、知見の蓄積が限られている。例えば、丁寧さが求められる依頼の手紙文を構成する基本要素の異同については部分的にしか分かっておらず、その展開構造についても比較が行われていない。また、両言語の依頼方略の相違が生み出される文化的要因についても十分な考察がなされていない。

3. 調査概要

3.1 調査の目的

本調査の目的は、日台の大学生による疎遠になった恩師宛の身元保証人依頼の手紙文から、日中両言語の丁寧な依頼の手紙を構成する基本要素と文章の展開構造の特徴と異同を明らかにし、その背後にある文化的要因を探ることである。

3.2 データ収集方法

⁴ 【】で示すのは、本稿における各ストラテジーの分類名称である（本稿表5参照）。

データ収集は、日本と台湾の大学生各 60 名計 120 名の協力を得て⁵、2009 年 12 月から 2010 年 12 月にかけて行った。彼らに書いてもらったのは、かつてお世話になり、今では疎遠になっている先生に大学院留学の身元保証人を依頼するという、相手レベル・用件レベル⁶の両面から高い丁寧度が求められる手紙文である。場面設定は、下記表 2 に示す通りである。内容が若干異なるのは、日台の調査協力者が状況をイメージしやすいように配慮・調整したためである。

表 2 依頼の手紙文の場面設定

<p>【日本人大学生向け場面設定】 あなたは数ヵ月後に卒業を控えた大学 4 年生です。あなたは 3 年生の時に交換留学生として半年間台湾の姉妹大学に留学してから中国語に興味を持ち、卒業後に台湾の大学院に留学する計画で、中国語を勉強してきました。先日、留学を申請していた台湾の A 大学華語教学研究所（大学院中国語教育科）から合格通知が届きました。入学申請には、台湾人（国籍・居住地とも台湾）の身元保証人による「身元保証書」が必要です。頼めそうな人は、短期留学した時に色々お世話になった姉妹大学の日本人留学生生活指導担当者・王明德先生だけです。王先生に日本語で身元保証人を依頼する手紙を書いて下さい。</p>
<p>【台湾人大学生向け場面設定】 你是大四的學生。你最近考上日本東京的 A 大學日本語日本文化研究所碩士班，但是辦理入學申請時，需要繳交一份在地（日本）保證人的相關證明文件（「身元保證書」）。保證人的資格方面，一定要居住在 A 大學的所在地東京，並且擁有日本國籍者，才可以。A 大學的入學申請截止日期愈來愈逼近，但是你卻一直找不到願意替你擔保的日本保證人。此時，你突然想起大一大二時的導師楊佳琪老師；楊老師在你升大三時嫁到日本東京，聽說她已經取得日本國籍。你要寫中文請託信給楊老師，拜託她當你的保證人。</p>

4. 結果と考察

4.1 依頼の手紙文の構成要素

⁵ 日本は東北・関西地方の国立・私立大学 3、4 年生計 60 名、台湾は北部の国立・私立大学 3、4 年生計 60 名。台湾の大学生については、第二言語が母語の使用に影響を与える「逆行転移」を回避するため、日本語学習経験のない非日本語専攻の学生に協力を依頼した。

⁶ 相手レベルは、疎遠になった目上の人。用件レベルは、相手がそれを実行することの当然性が低く、負担度の大きい内容。

手紙文には一定の書式がある。例えば、日本語の手紙文は主に「前文」「主文」「末文」「後付」という4つの部分から成る。前文とは、手紙の最初の挨拶を述べる部分で、「頭語」「時候の挨拶」「安否の挨拶」「お礼・お詫びの挨拶」などから成る。主文とは、手紙の用件を伝える最も重要な部分で、「起語」と「本文」から成る。末文とは、手紙の最後の用件をまとめ、終わりの挨拶をする部分で、「結びの挨拶」と「結語」などから成る。後付は、「日付」「署名」「宛名」などを記す部分である。日本語と中国語の手紙の書式は類似性が非常に高い⁷。以下では、前文・主文・末文に分けて分析を行う。

その前に、本稿における主文と末文の区分について説明しておく。両者の区分については研究者の間でも見解が一致しておらず、「(誠に勝手なお願いですが、) よろしくお願い申し上げます。」などの【懇願】と「ご返事をお待ちしております。」などの【返信要求】を、主文の構成要素とする立場と末文の構成要素とする立場がある⁸。また、日本語の手紙の書き方事典28冊から身元保証人依頼の手紙文例45編を集めて調査したが、主文と末文の区分は一様ではなく、境界が不明確なものも少なくなかった。このため、本稿では分析の便宜上、日中両言語の依頼の手紙に見られる【懇願】【返信要求】【先行感謝】を主文の構成要素とするが、主文末尾のこれらの発話が末文の結びの言葉を兼ねる場合もあるという立場を取る。

4.1.1 前文で使用されるストラテジー

日台の大学生が書いた疎遠になっている恩師宛の身元保証人依頼の手紙文の前文からストラテジー⁹を抽出した。下記表

⁷ 千葉(2010:3)によると、中国語の手紙は宛名が必ず文頭に来るなど、日本語と若干違いがあるが、相当部分が対応関係にあるという。

⁸ 前者は塩澤(1989, 1996)、後者は森山(1995)参照。

⁹ 本稿における「ストラテジー」は、発話行為を構成する最小の機能的な意味単位である「意味公式」(semantic formula)に相当する。

3 に抽出した 12 のストラテジーのラベル・定義・産出例を示す。そして、下記表 4 に各ストラテジーの使用状況を示す。

表 3 日台の大学生が前文で使用した主なストラテジー

ラベル		定義	産出例	
頭語		フォーマルな手紙文の書き出しの言葉	日	拝啓
			中	敬肅者
呼びかけ		相手に呼びかける	日	王先生、いかがお過ごしでしょうか。
			中	老師，好久不見，
出会いの挨拶		出会いの挨拶言葉を使う	日	こんにちは。／ご無沙汰しております。
			中	您好，許久不見。
名乗り	関係型	相手との関係に触れて自分の姓名・身分を告げる	日	一年前に半年ほど留学していた XX 大学の XXXX と申します。
			中	我是您於 XX 任教時的學生 XXX，
	恩恵型	相手から恩を受けたことに触れて自分の姓名・身分を告げる	日	私は、以前、台湾へ留学した際、先生に大変お世話になりました XXXX です。
			中	我是您在台灣教書時，曾蒙您指導的學生 XXX。
記憶の喚起		相手に自分を思い出させる	日	一該当なし
			中	不知老師還記得我嗎？
時候の挨拶		季節に触れる	日	すっかり寒くなり、山形の景色も雪化粧で白一色になりました。
			中	一該当なし
相手の安否		相手の安否を気遣う	日	お変わりなくお元気でいらっしゃいますか？
			中	近來過得可好呢？
自分の安否		自分の安否・現況を伝える	日	私は変わらず元気でやっていますが、
			中	我們都很好，
恩恵への礼		過去に受けた恩恵への礼を述べる	日	昨年度の留学の際には大変お世話になり、ありがとうございました。
			中	感謝您那段日子照顧與指導。
思慕の表明		相手に対する懐かしさを伝える	日	一該当なし
			中	我們這一群學生都很想念您，想念您對我們的諄諄教誨。
親密さの強調		お互いの親しさを強調する	日	一該当なし
			中	您應該對歡送您的餐會還有些許印象吧，我就是當初代表全班同學獻花的那個男學生，那時我難過的幾乎要掉下眼淚，
無礼の詫び		突然手紙を送りつける失礼を詫びる	日	突然のお手紙、申し訳ありません。
			中	很抱歉在您百忙中叨擾您。

表 4 前文におけるストラテジーの使用状況 (n=60)

ストラテジー	日本人大学生		台湾人大学生					
	使用者数	%	使用者数	%				
相手の安否	44	73.3	37	61.7				
恩恵への礼	34	56.7	5	8.3				
出会いの挨拶	30	50.0	46	76.7				
頭語	30	50.0	6	10.0				
時候の挨拶	26	43.3	0	0.0				
名乗り	恩恵型	12	23.3	20.0	33	55.0	2	3.3
	関係型	2		3.3			31	
呼びかけ	8	13.3	4	6.7				
自分の安否	4	6.7	1	1.7				
無礼の詫び	1	1.7	3	5.0				
思慕の表明	0	0.0	13	21.7				
記憶の喚起	0	0.0	9	15.0				
親密さの強調	0	0.0	3	5.0				

手紙形式の文書で依頼する場合も、口頭で依頼する場合と同様に、いきなり用件に入らず、まず挨拶から始めるのが一般的である。日本語でも中国語でも手紙の前文にはほぼ決まった挨拶の型があるが、本調査ではその挨拶の型の特徴的な共通点及び相違点として次の3点が観察された。

- (1) 日台いずれの大学生も積極的ポライトネスのストラテジーの使用が多い。
- (2) 日本の大学生の方が【頭語】【名乗り（恩恵型）】【恩恵への礼】の使用が多く、台湾の大学生には見られない【時候の挨拶】を使用している。
- (3) 台湾の大学生は日本の大学生には見られない【記憶の喚起】【思慕の表明】【親密さの強調】を使用している。

上述のストラテジーの使用傾向とその文化的要因について考察する。まず、日台の大学生が前文で使用した12のストラテジーは、【頭語】と【無礼の詫び】を除き¹⁰、全て積極的ポ

¹⁰ 本調査では、「敬語の使用」を分析対象外とした。日本と台湾はいずれも「儒教圏」にあり、幼い頃から教師や年長者を敬うように教育される。本調査では、依頼の相手が恩師であるため、日台いずれの大

ライトネスのストラテジーに分類される。B&L(1987:103)は、積極的ポライトネスの技術はFTAの補償としてだけでなく、一種の社会的促進剤として使用できると述べている。また、社会心理学の観点から依頼における影響手段について論じた今井(2006)は、人間は気分が良い時や幸福な情動状態にある時、依頼を応諾しやすくなると指摘している。日台両学生が多用した【出会いの挨拶】と【相手の安否】¹¹は、相手との距離を縮め、相手の人から関心をもたれたいという欲求を満たすストラテジーであり、日台いずれの大学生も前文では、相手にプラスの感情を抱かせるために相手の積極的フェイスに向けた働きかけを行っていることが分かる。

次に、日本の大学生の方が【頭語】【名乗り(恩恵型)】【恩恵への礼】を多用し、台湾の大学生には見られない【時候の挨拶】を使用した点について考察する(図1参照)。

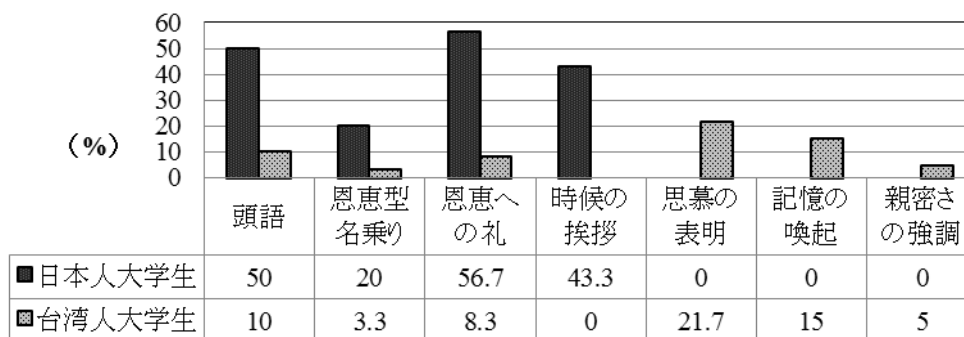


図1 日台で使用に特徴的な違いのあるストラテジー(前文)

学生も社会規範的な言語使用の慣習に従い、すべての手紙で敬語が使用されていた(但し、使用度・丁寧度は一様ではない)。

¹¹ 【出会いの挨拶】は、積極的ポライトネスの「ストラテジー7: 共通基盤を想定・喚起・主張する」に分類される。【相手の安否】は、積極的ポライトネスの「ストラテジー1: 相手(の興味・欲求・必要・所有物)に気づき、注意を向ける」に分類される。

日本の大学生が多用した【頭語】¹²は消極的ポライトネスのストラテジーに分類され、相手に対する改まった態度や敬意を表す働きをする。一方、【名乗り（恩恵型）】と【恩恵への礼】¹³は積極的ポライトネスのストラテジーに分類され、相手の他者に好ましく思われたいという人間関係上の欲求を満たすと同時に、相手に好印象を与える効果があると思われる。日本の大学生がこれらのストラテジーを多用したのは、日本人の持つ「わきまえ」及び「負債」の概念が関わっていると考えられる。井出（2006:114-115）では、社会言語学における「わきまえ」とは、「世の中はこういうものだからと認識して社会の期待に沿うように言語を使うこと」であり、日本の言語使用では自分の位置に応じて言語形式や表現を使い分けることが求められると述べている。また、森山（1995:95）では、日本文化では、人間関係をどう「わきまえているか」の表示によって、望ましい関係が確立するかどうか左右されるため、敬語によって上下親疎の意識を表示するだけでなく、「恩を受けていたなら確認する、何らかの無礼があればそれを詫げる」といったことが必要だと述べている。そして、林（1973:61）では、日本人は「負い目を負ったか与えたか」という待遇意識が持続し、世話になったことを忘れずにお礼を言う習慣を大事にすると述べている。阿部（1999:102）では、日本文化ではこうした習慣が「人間関係円滑化の連結器」の機能を果たしていると指摘している。このような日本文化の言語行動規範に基づき、日本の大学生の多くが【頭語】で

¹² 【頭語】は、消極的ポライトネスの「ストラテジー5: 敬意を示す」に分類される。

¹³ 【恩恵への礼】と【名乗り（恩恵型）】は、積極的ポライトネスの「ストラテジー15: 相手に贈り物（品物・共感・理解・協力）をする」に分類される。

始まる改まった手紙の形式を選び¹⁴、【名乗り（恩恵型）】と【恩恵への礼】によって、相手から受けた恩をしっかりと心に刻んでいることを伝える手段をとったと思われる。日本文化においては、前に世話になったことに触れ、改めてお礼を言うことは、相手に「世話のしがいがある」といった好印象を与え、依頼の応諾獲得にプラスに作用すると考えられる。

【時候の挨拶】¹⁵については、よく「季節の変化に富み、季節感を大切にす日本ならではの習慣である」というようなことが言われるが、実は、中国語にもこれに相当する「時令」と呼ばれる部分がある。B&L（1987:112）では、依頼をする場合に、まず前置きとして天候など無難な話題のスモール・トークから始まることは、「ただ頼み事のために相手を利用しているのではなく、いい関係を維持したいという気持ちがあることを相手に伝える手段になる」と指摘している。後に述べるが、日本文化において依頼は負荷度のかなり大きい行為であるが¹⁶、中華文化においてはそれほどでもない。つまり、日本の大学生は相手のフェイス侵害の緩和という目的も兼ねて、【時候の挨拶】を使用した可能性が推測される。

続いて、台湾の大学生が日本の大学生には見られない【記憶の喚起】【思慕の表明】【親密さの強調】を使用していた点について考察する（図1参照）。これらはいずれもお互いの「結びつき」を主張する積極的ポライトネスのストラテジーである¹⁷。楊・岡田（2003）でも、中国の大学生の方が日本の大学生より仲間意識を喚起するストラテジーの使用が多いこと

¹⁴ 依頼の手紙文のルールについて論じた塩澤（1996:164）では、相手に過度の負担をかける依頼の場合、「お願いする立場をわきまえ、改まった手紙の形式を踏まえる」べきであると指摘している（強調は筆者）。

¹⁵ 【時候の挨拶】は、積極的ポライトネスの「ストラテジー5: 一致を求め」に分類される。

¹⁶ 北尾・北尾（1988:60）参照。

¹⁷ 【記憶の喚起】【思慕の表明】【親密さの強調】の3つは、全てお互いの共通基盤を主張する積極的ポライトネスのストラテジーである。

を報告している。本調査で台湾の大学生が上述のストラテジーを使用したのは、中華文化の「^{クアンシ}関係」「^{レンチン}人情」といった概念と関わりがあると考えられる。社会心理学的な観点から華人の社会行為を分析した黄光国(1988)は、華人の人間関係は、①「情感性関係」(家族や親友など第一次集団構成員との関係)、②「工具性関係」(店員と客などある目的のために一時的に発生した関係)、③「混合性関係」(第一次集団ほど親密ではない親戚・師弟・同僚などとの関係)の3種類に区分でき、①の相手には無条件で必要な援助を行う「欲求原則」、②の相手には公平な取引を求める「公平原則」、③の相手には特別に援助を行う「人情法則」¹⁸が適用されるとしている。しかし、実際に③の相手を援助するかどうかは、その相手により、利害得失を考えて決めるという。一方、楊国枢(1993)は、華人の人間関係は、①「家人関係」(家族や身内との関係)、②「熟人関係」(親戚・友人・近所・師弟・同僚・同級生・同郷などとの関係)、③「生人関係」(赤の他人との関係)の3つの範疇に分類でき、①の相手にはお互いに責任を尽くす「責任原則」、②の相手には付き合いの程度に応じて人情のやり取りをする「人情原則」、③の相手とは実際の利害状況に応じて付き合う「利害原則」が適用されるとしている。このように中華社会では人情や互助の倫理観があり、その程度は相手との関係が親密であるほど強くなる。言い換えれば、相手との親疎の程度によりその扱いを決める「関係志向」、「関係中心」或いは「関係決定論」を特徴としており¹⁹、本調査で台湾の大学生が相手との結びつきを主張するストラテジーを使用し

¹⁸ 黄光国(1988:21)では、「人情」とは「中華社会における人付き合いに関する社会規範」であり、平素は贈り物・挨拶・訪問などにより人間関係ネットワーク圏内の人たちとの交流と良好な人間関係を保ち、ネットワーク圏内のある人が困難に遭った時は全力を尽くして助け、助けられた方は適切な時にお返しをすることだとしている。

¹⁹ 黄(1988:26)、楊(1993:106)参照。

たのは、相手の人情や互助の倫理観に訴えて助力を得たいという動機が含まれていると考えられる。

また、困ったときは助け合う人情や互助を重んじる中華文化においては、依頼の負荷度が日本文化のようには高くはないことから、天候などのスモール・トークはそれほど意味をもたず、また、過去に相手に世話になったことをわざわざ取り上げたり、それに対して改めてお礼を言ったりすることより、相手から受けた恩を忘れずにいて、相手が必要な時にお返しすることの方が重要視されるため²⁰、台湾の大学生に【時候の挨拶】の使用が見られず、【名乗り（恩恵型）】と【恩恵への礼】の使用も日本の大学生ほど多くなかったものと考えられる。【頭語】については、中国語の手紙にも頭語と結語に相当する「啓事敬辞」と「結尾敬辞」と呼ばれる部分があるが、日本語とは違い、フォーマルな手紙でも必ずしも用いられず、一対で用いられるものでもないという²¹。

4.1.2 主文で使用されるストラテジー

下記表 5 に日台の大学生が書いた丁寧な依頼の手紙の主文から抽出した 16 のストラテジーのラベル・定義・産出例を示す。そして、下記表 6 に各ストラテジーの使用状況を示す。

表 5 日台の大学生が主文で使用した主なストラテジー

ラベル	定義	産出例	
依頼予告	依頼を予告する	日	本日は先生にお願いがあって、手紙を書かせて頂きました。
		中	聽說老師現在人在東京，故有一件事情想要麻煩老師。
事情説明	依頼に入る前に依頼事項に関する情報を伝える	日	私の近況をお知らせいたしますと、台湾の A 大学華語教学研究所に合格し、入学申請をしようとしているところです。

²⁰ 王（2005:38-39）では、中国語では相手に次に会った時、再び口頭によってお礼を言う習慣はなく、ずっと相手から受けた恩恵を忘れないでいて、相手が必要な時にお返しをするのが、人間関係を長く続けていきたいという気持ちの現れになるとしている。

²¹ 千葉（2010:20-22）参照。

			中	時光飛逝，學生即將要從學校畢業，也將繼續深造。學生有幸考上日本東京的 A 大學日本語日本文化研究所碩士班，
理由提示	相手に依頼しなければならない理由を伝える		日	入学申請の際に台湾の方に身元保証人になって頂く必要があるようです。／他に頼める方もなく、このままでは入学ができません。
			中	入學手續中需要一份當地的保證人。／入學申請之程序繁雜，深感困擾。其中需繳交在地保證人之證明文件，截止日期日趨逼近，但卻始終找不到日本保證人而無法辦理其申請。
配慮	詫び・恐縮型	依頼により相手を煩わせることへのお詫びや恐縮の気持ちを伝える	日	申し訳ありませんが、／お忙しい中とは存じますが、／突然のぶしつけなお願いで大変失礼ではございますが、
			中	冒昧／百忙之中／不好意思
	条件型	依頼に条件をつけて遠慮の気持ちを伝える	日	もしよろしければ、
			中	如吾 師百忙中有餘，
依頼	依頼の意図を伝える		日	私の身元保証人になっていただけないでしょうか。
			中	不知能否請老師擔任學生的保證人呢？
懇願	再び依頼の意図を伝える		日	是非王先生に身元保証人になっていただきたいと考えているのですが、お願いできますでしょうか？大変なお願いで申し訳ありませんが、 <u>よろしくお願ひします</u> 。
			中	不知道是否能請老師為我當保證人？懇請老師幫助我，
先行感謝	依頼した後、相手の応諾に先駆けて感謝の意を伝える		日	一該当なし—
			中	因此，可以麻煩老師幫我這個忙嗎？ <u>感激不盡</u> ！／對老師的感謝之意，在信裡難以表達，他日必當趨府上親自拜訪。
返信要求	諾否の返事を要求する		日	良いお返事を期待しております。／先生からのお返事をお待ちしております。
			中	賜覆為禱。
承諾の期待	相手が承諾してくれることへの期待を伝える		日	一該当なし—
			中	希望您可以答應。
関与の言及	相手と依頼事項の関与性について述べる		日	このような機会を得ることができたのも、短期留学時にお世話になった先生のおかげです。

		中	多虧恩師之教誨，在下才有如此成就。
恩恵の言及	過去に相手から受けた恩恵に触れ、相手への信頼感や依存心を表す	日	<u>短期留学の際に大変お世話になった先生</u> にお願いさせて下さい。 / <u>留学中大変お世話になり</u> 、その上、このような依頼をするのは大変恐縮ではありますが、
		中	一該当なし
信頼の表明	過去に恩恵を受けた相手への信頼感を伝える	日	<u>信頼のおける王先生</u> に私の身元保証人になっていただきたく一筆させていただきました。
		中	一該当なし
努力の約束	努力を誓う	日	A 大学でも、 <u>昨年の留学以上に頑張っていくつもり</u> です。
		中	學生到日本讀書後一定會更加用功讀書，不會辜負老師的期待。
切望の表明	夢を実現させたい強い思いを伝える	日	どうしても台湾で勉強したいので、
		中	這是學生期待已久的留學夢，
責任の表明	相手に迷惑をかけないと誓う	日	一該当なし
		中	入學後我絕不會做出令老師蒙羞的事情，
関係の強調	お互いの社会的役割関係を強調する	日	一該当なし
		中	<u>學生懇求老師替我擔任保證人</u> ，/ <u>望老師念往日師生情誼</u> ，

表 6 主文におけるストラテジーの使用状況 (n=60)

ストラテジー	日本人大学生				台湾人大学生				
	使用者数		%		使用者数		%		
依頼	60		100.0		60		100.0		
理由提示	60		100.0		60		100.0		
事情説明	60		100.0		57		95.0		
配慮	詫び・恐縮型	50	48	83.3	80.0	14	13	23.3	21.7
	条件型		8		13.3		2		3.3
懇願	48		80.0		16		26.7		
依頼予告	32		53.3		7		11.7		
返信要求	19		31.7		2		3.3		
関与の言及	12		20.0		9		15.0		
恩恵の言及	6		10.0		0		0.0		
努力の約束	3		5.0		3		5.0		
切望の表明	3		5.0		1		1.7		
信頼の表明	3		5.0		0		0.0		
先行感謝	0		0.0		38		63.3		
関係の強調	0		0.0		29		48.3		
承諾の期待	0		0.0		3		5.0		
責任の表明	0		0.0		1		1.7		

主文は、手紙の本題である用件を伝える最も重要な部分である。本調査では、日台の大学生が書いた丁寧な依頼の手紙文から、日中両言語の主文におけるストラテジー使用の特徴的な共通点及び相違点として次の3点が観察された。

- (1) 日台いずれの大学生も【依頼】【理由提示】【事情説明】の使用が多い。
- (2) 日本の大学生の方が【依頼予告】【配慮】【懇願】【返信要求】の使用が多く、台湾の大学生には見られない【恩恵の言及】と【信頼の表明】を使用している。
- (3) 台湾の大学生は日本の大学生には見られない【先行感謝】と【関係の強調】を使用している。

上述のストラテジーの使用傾向とその文化的要因について考察する。まず、日台いずれの大学生も主文で依頼事項を伝える【依頼】のほかに、【理由提示】【事情説明】を多用していた点について考察する。この2つは、消極的ポライトネスのストラテジーに分類され、依頼というFTAを行うやむを得ない事由を伝えることで、相手を感じる負担を一部軽減する働きがあるとされる²²。依頼の手紙文だけでなく、会話を扱った先行研究でも日中両言語は【理由提示】や【事情説明】の使用頻度が高いことが報告されており²³、依頼の必要性や妥当性を訴えることが両言語に共通した効果的な依頼方略になっていると言える。特に、相手レベルや用件レベルが高くなると、やむを得ない事由があることを伝えて相手に納得してもらい、承諾を得ようとする傾向が強まると考えられる。

²² 【理由提示】と【事情説明】は、消極的ポライトネスの「ストラテジー6: 謝罪する」の具体的な手段の1つ「圧倒的な理由を示す」に分類される。B&L(1987:189)では、話し手がFTAを行うやむを得ない理由(例えば、話し手自身の能力上の問題)を述べることで、普通の状況であれば、聞き手の消極的フェイスを侵害することなど考えもしないということを暗に伝え、それによって、その侵害を部分的に軽減することができるとしている。

²³ 依頼の日中対照研究の成果を概観した本間(2014)参照。

次に、日本の大学生の方が【依頼予告】【配慮】【懇願】【返信要求】の4つの消極的ポライトネスのストラテジーの使用が多い点について考察する（図2参照）。

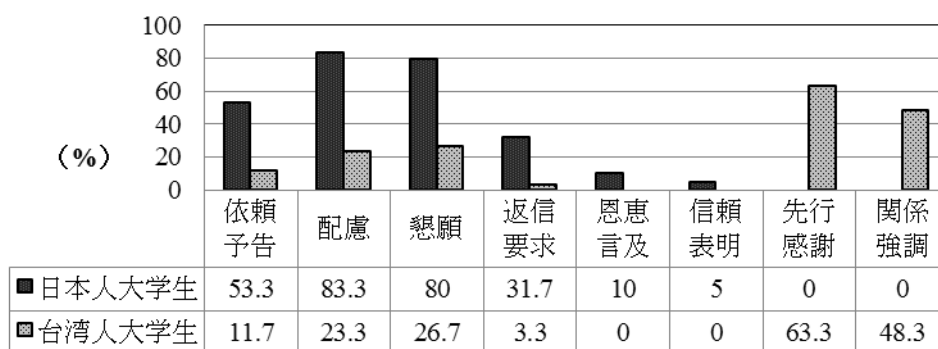


図2 日台で使用に特徴的な違いのあるストラテジー（主文）

これについても、前述した日本人の持つ負債の概念と深い関わりがあると考えられる。日本人は、人に借りを作りたくないという欲求と、借りを作ることが精神的な負担として受け止める傾向が強いことはよく指摘されている²⁴。このような文化においては、依頼する側だけでなく、依頼される側が感じる精神的負担もかなり大きい。そこで、相手にかける負担をできるだけ軽減するために、【理由提示】のほかに、予め手紙の目的を明示して不明瞭さが相手に与える負担を避けると同時に、相手に心の準備を促す【依頼予告】²⁵、相手を煩わせることへの謝罪・恐縮・遠慮の気持ちを表す【配慮】²⁶、

²⁴ 北尾・北尾（1988:61）、川村（1991:57）参照。

²⁵ B&L（1987:130）では、相手の消極的フェイスに対する配慮として、すぐに要点を示すことで冗長さや不明瞭さによって相手にかけてしまう負担を最小限にする手段がとられる場合もあるとしている。

²⁶ 日台の大学生が使用した【配慮】は、「詫び・恐縮型」と「条件型」の2つに分けられる。「詫び・恐縮型」は、消極的ポライトネスの「ストラテジー6：謝罪する」の具体的手段「許しを請う」および「侵害の事実を認める」に相当する。B&L（1987:187-188）では、謝罪によって相手の消極的フェイスを侵害することを望んでいないことを伝えることで、その侵害を部分的に埋め合わせることができるとしている。「侵害の事実を認める」については、聞き手のフェイスを侵害したことを明示的に認めることで謝罪がなされたことになるとしている。一方、「条件型」は、消極的ポライトネスの「ストラテジー2：質問する、

繰り返し頼むことによって依頼の必要性和相手への依存を強調し、自分の立つ位置を低く、相手の立つ位置を高くして優越感を与える【懇願】²⁷などの消極的ポライトネスのストラテジーが多用されたと考えられる。【返信要求】については、日本の大学生が書いた手紙 60 通のうち【懇願】が使用されていないものが 11 通あり、その中の 10 通で【返信要求】が使用されていた。このことから、【返信要求】は【懇願】の機能も併せ持つことが推測される²⁸。先行研究では、日中両言語の【依頼予告】と【懇願】の使用傾向について一致した結果が得られておらず、結論は出ていない²⁹。本調査では、日本語の方が中国語より有意に多いという結果を得たが、日本文化の方が中華文化より依頼という行為の負荷度が大きいことを考えると、理に適っており、B&L (1987) の日本文化を消極的ポライトネス文化、中華文化を積極的ポライトネス文化とする見解とも符合する。

また、日本の大学生は、前文だけでなく主文においても【恩恵の言及】や【信頼の表明】を用いて過去に相手に世話になったことに触れ、それによって生まれた信頼感や依存心を表明している。これは、相手の積極的フェイスを満たすと同時に、社会心理学分野で言われる「一貫性欲求」を利用し、相手に「熱心で信頼できる人」といった自己像を維持するため

ヘッジを用いる」の if 節（「もし～なら」）の使用に相当する。依頼を躊躇した形で行うことで、相手の受ける負担度を軽減できるという。

²⁷ 【懇願】は、消極的ポライトネスの「ストラテジー 10：自分が借りを負うこと・相手に借りを負わせないことを明言する」に相当する。B&L (1987:209-211) では、一見すると相手に対して強く助力を求めるのは無礼に思われるが、相手への依存や借りを強調することは、相手の「自分の方が強い力を持つ」という派生的な欲求を補償することになるとしている。

²⁸ 塩澤 (1996:165-166)、樺島 (2000:81) では、主文で使用される「だめ押し (のお願い)」の例に、相手に返信を頼む「お返事をお待ちしております。」や「よいお返事を期待いたしております。」を挙げている。

²⁹ 依頼の日中対照研究の成果を概観した本間 (2014) 参照。

に依頼に応諾するよう働きかけるストラテジーであり³⁰、貸し借りに敏感な日本文化では効果性が高いことが推測される。

続いて、台湾の大学生が日本の大学生と比べて【依頼予告】【配慮】【懇願】【返信要求】の使用が少なく、日本の大学生には見られない積極的ポライトネスのストラテジーの【先行感謝】と【関係の強調】を多用した点について考察する（図2参照）。この点についても、前述した華人社会の人情や互助を重んじる文化と関わりがあると考えられる。岡田・安藤（2001:113）では、中国人が「お互いに頼み、頼まれ、人間関係を強くしていく」社会背景を持つと指摘しているが³¹、同じ文化圏に属する台湾人もこうした考え方を持つものと思われる。このような文化においては、依頼する側も依頼される側も、日本人ほど大きな精神的負担を感じないので³²、依頼によって相手に与える負担を一部軽減するための消極的ポライトネスのストラテジーは多用されず、それより、【先行感謝】³³によって相手が自分に協力してくれるだろうという確信や信頼感を表明し、協力を要請する手段がとられることが多いと考えられる。楊・岡田（2003）、楊（2009）などでも中国語の依頼の手紙やメールに【先行感謝】が使われていることが報告されており、中国語の依頼における慣用的なストラテジーだと言えるだろう。そして、台湾の大学生が多用した

³⁰ 社会心理学分野における依頼の影響手段に関する研究では、人間には、自己の内的状態を自分の行動や周囲の状況から推測する習性と、自他に一貫した行動パターンを望む「一貫性欲求」があり、これを利用すると依頼応諾の可能性が高まることが分かっている。今井（2006）参照。日台両学生が使用した【関与の言及】も一貫性欲求を利用して、相手に一度関わったことに関わり続けるよう働きかけるものである。

³¹ 黄（1988:23-24）は、混合性関係のネットワーク内では、人情のやり取りによってお互いの良好な関係を維持していると指摘している。

³² 岡田・安藤（2001）では、日中の大学生を対象に評定尺度法によるアンケート調査を実施、中国人の方が日本人より依頼の許容範囲が広いという結果を得ている。

³³ 【先行感謝】は、積極的ポライトネスの「ストラテジー11：楽観視する」に分類される。B&L（1987:126）では、無遠慮にも相手が自分に協力してくれると決めてかかることは、相手が自分に協力してくれるはずだという暗黙の要求を伝えることになる旨と指摘している。

【関係の強調】³⁴は、自分と相手との役割関係を強調することで、相手に社会規範に沿った行動をとるよう働きかけるもので³⁵、人間関係ネットワーク内の相互扶助を重んじる中華文化では効果性が高いことが推測される。

4.1.3 末文で使用されるストラテジー

下記表 7 に日台の大学生が書いた丁寧な依頼の手紙の末文から抽出した 7 つのストラテジーのラベル・定義・産出例を示す。そして、下記表 8 に各ストラテジーの使用状況を示す。

表 7 日台の大学生が末文で使用した主なストラテジー

ラベル		定義	産出例	
健康を祈る 言葉		相手の健康や幸福、仕事の順調を祈る	日	王先生のますますのご健勝をお祈りします。
			中	秋風多厲，幸祈保重。／敬祝一切平安順心
再会を願う 言葉		再会への期待を述べる	日	王先生と台湾で会えることを楽しみにしております。
			中	到了東京後，期待能再次見到您。
指導を願う 言葉		今後の指導を願う	日	勉強に当たりましては、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。
			中	—該当なし—
伝言を頼む 言葉		相手の家族への伝言を頼む	日	—該当なし—
			中	師丈處請叱名請安
閲読への礼		手紙を読んでもくれたことに礼を言う	日	—該当なし—
			中	非常感謝您讀完這封信。
別れの挨拶		別れの挨拶言葉を使う	日	失礼いたします。
			中	—該当なし—
結語	単一型	フォーマルな手紙文の締めくくりの言葉	日	敬具
			中	—該当なし—
	兼備型	相手の健康、幸福、仕事の順調などを祈る言葉と結語を兼ねた言葉	日	—該当なし—
			中	(肅此專呈) 敬請 教安

³⁴ 【関係の強調】は、お互いの共通基盤を主張する積極的ポライトネスのストラテジーである。

³⁵ 今井(2006:93)では、依頼に応じるよう働きかける「影響手段」の1つに「正当要求」を挙げている。これは、自分と相手との社会的役割関係や親密度から、相手が社会的規範に沿った行動をとる、つまり、依頼を応諾することの必要性を指摘・強調する方略である。

表 8 末文におけるストラテジーの使用状況 (n=60)

ストラテジー		日本人大学生				台湾人大学生			
		使用者数		%		使用者数		%	
結語	単一型	30	30	50.0	50.0	28	0	46.7	0.0
	兼備型		0		0.0		28		46.7
健康を祈る言葉		13		21.7		14		23.3	
再会を願う言葉		2		3.3		3		5.0	
別れの挨拶		2		3.3		0		0.0	
指導を願う言葉		1		1.7		0		0.0	
伝言を頼む言葉		0		0.0		3		5.0	
閲読への礼		0		0.0		2		3.3	

日本語でも中国語でも、用件を書き終えた後、その手紙を締めくくる挨拶の言葉を書く。末文には前文と同様に挨拶の定型があるが、本調査ではその挨拶の型の特徴的な相違点として次の3点が観察された。

- (1) 日本の大学生の手紙は、主文末尾の【懇願】と【返信要求】が末文の結びの挨拶を兼ねる形が多い。
- (2) 台湾の大学生の手紙は、主文末尾の【先行感謝】が末文の結びの挨拶を兼ねる形が多い。
- (3) 台湾の大学生の方が積極的ポライトネスのストラテジーの使用が多い。

上述のストラテジーの使用傾向とその文化的要因について考察を行う。まず、日本の大学生の手紙には、主文末尾の【懇願】と【返信要求】が末文の結びの挨拶を兼ねるものが多かった点について考察する。日本語の手紙は、【健康を祈る言葉】など社交的な挨拶言葉で締めくくるのが一般的とされる。しかし、本調査では日本の大学生の末文における【健康を祈る言葉】など相手との良好な関係の維持に働くとと思われる積極的ポライトネスのストラテジーの使用はそれほど多くなかった(図3参照)。

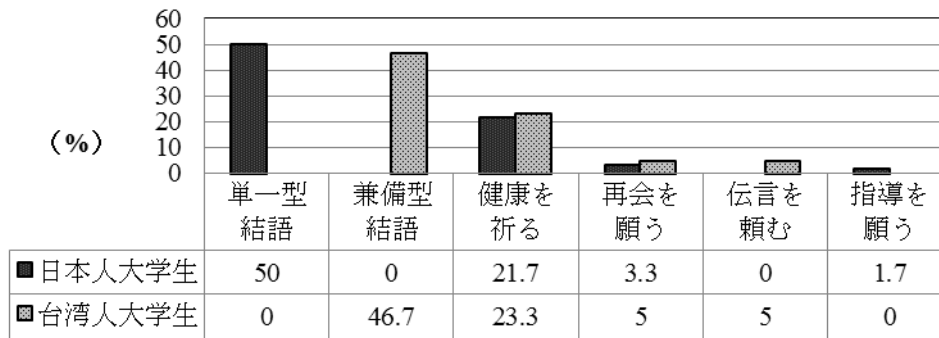


図 3 日台で使用に特徴的な違いのあるストラテジー（末文）

こうした傾向は、楊・岡田（2003）でも報告されている。そこで、日本語の手紙の書き方事典 28 冊から知人・友人・親戚・恩師宛の身元保証人依頼の手紙文例 45 編を集めて調査した。結果、【健康を祈る言葉】のあるものは 10 編（22.2%）で、本調査の使用率と同程度であった。また、【再会を願う言葉】のあるものは皆無で、【伝言を頼む言葉】のあるものは 4 編（8.9%）あったが、依頼者と被依頼者の家族同士が面識のある場合に限られていた。日本語の手紙文の構成について論じた塩澤（1989:192）は、依頼の手紙の末文に「場合によっては」自愛の挨拶や伝言を「つけ加えることもある」とし、これらが依頼の手紙の末文の必須要素ではないことを示している。これらの点から、日本人は相手に大きな負担をかける依頼をする場合、末文の挨拶においても負債意識が強く働き、相手との関係を問わず、社交的な挨拶言葉より低姿勢で助力を願う言葉を選ぶ傾向があると考えられる³⁶。

次に、台湾の大学生の手紙には、主文末尾の【先行感謝】が末文の結びの挨拶を兼ねるものが多かった点について考察する。台湾の大学生の手紙には、主文末尾の【懇願】が末文の結びの挨拶を兼ねるものも見られたが、【先行感謝】が結び

³⁶ 森山（1995:97）では、最後の挨拶で「依頼についてのメタ的な言及をすることで、依頼としての立場を最後に再確認する」ことは人間関係の「わきまえ」と指摘している。

の挨拶を兼ねるものが多数を占めていた（図 2 参照）。B&L（1987:126）は、「相手が自分に協力してくれると決めてかかる」ことは「無遠慮」だが、「相手が自分に協力してくれるはずだ」という暗黙の要求を伝えることになる」と述べている。これに対し、楊・岡田（2003:154-156）は、中国人の考えでは、「依頼を行ったあと感謝の気持ちを伝えるほうが礼儀正しい」ことであり、「前もって感謝するのが相手の承諾を確信していることの明示であり、それによって双方が信頼関係にあることが強調される」と述べている。つまり、台湾人大学生の手紙に見られた【先行感謝】は、華人社会で重要視される人情や面子³⁷といった価値観に訴えて相手が断りづらくし、承諾を引き出す巧みな依頼方略だと言えるだろう³⁸。

続いて、台湾の大学生の方が日本の大学生より積極的ポライトネスのストラテジーの使用が多い点について考察する。本調査では、日台の大学生の【健康を祈る言葉】の使用率は21.7%と23.3%と同程度であるが（図 3 参照）、中国語の【結語（兼備型）】には相手の健康や仕事の順調を祈る表現が含まれているため³⁹、台湾の大学生の相手を思いやり、幸せを願う言葉の使用率は計65.0%で、日本の大学生の約3倍となっている。こうした傾向は、楊・岡田（2003）でも報告されて

³⁷ 黄（1988:29-30）では、「面子」とは「社会的地位と声望」を指し、華人社会では面子が個人の間関係ネットワーク内における地位・信望・権力を左右するため、「顧面子」（面子を守ること）が個人の自尊心（self-esteem）に関わる重要なことになっているとしている。

³⁸ 楊（2009:107）では、中国語の手紙文で【先行感謝】が使用されるのは、「たとえ依頼を承知してもらえないとしても、依頼を聞いてくれるだけで感謝すべきだ」という考えがあるから」だという見方を示している。しかし、本調査では、「可否勞煩老師幫我寫一份身分保證書？對老師的感謝之意，在信裡難以表達，他日必當趨府上親自拜訪。」など手紙を読んでもくれたことへのお礼とは考えがたい【先行感謝】が多数産出されている。また、【先行感謝】の後に、「感謝您閱讀學生的信件，若耽誤您寶貴的時間，請多原諒。」と手紙を読んでもくれたことへのお礼を述べているものも見られた。こうした点から、【先行感謝】の主な働きは、お礼を述べることで相手が断りづらくし、依頼を承諾するように仕向けることではないかと思われる。

³⁹ 日本語の結語に相当する「結尾敬辞」には、相手の健康や仕事の順調を祈る2文字の表現が含まれている。千葉（2010:22）参照。

いる。今回、台湾の大学生に【結語（兼備型）】【健康を祈る言葉】【再会を祈る言葉】【伝言を頼む言葉】など相手とその家族への関心を示し、良好な人間関係の維持に働く積極的ポライトネスのストラテジーの使用が多かったのは、華人社会では人間関係が「資源」と見なされ、その構築や維持が重視されてきた⁴⁰ことと関連があるのではないかと思われる。

4.2 主文における文章の展開構造

前節では、日台の大学生が書いた恩師宛の身元保証人依頼の手紙を、前文・主文・末文の3つの部分に分け、各部分におけるストラテジーの使用状況とその背後にある文化的要因を分析・考察した。本節では、手紙の用件を伝える最も重要な部分である主文における文章の展開構造を分析・考察する。主文から抽出された各ストラテジーのうち、使用者の割合が半数を超えたものを、丁寧な依頼の手紙の主文における「基本ストラテジー」（必須要素）とし、その配列を分析した。

日本人大学生の手紙については、【依頼予告】【事情説明】【理由提示】【配慮（詫び・恐縮型）】【依頼】【懇願】の6つが基本ストラテジーに該当する。分析の結果、下記表9に示した8つの展開構造パターンが確認できた。

表9 日本人大学生の主文の展開構造パターン（n=60）

パターン	通数 (%)
① 事情説明 → (配慮) → 理由提示 → (理由提示 / 配慮) → 依頼 → (理由提示 / 配慮) → 懇願 → (配慮) → (懇願) → (懇願)	23 (38.3)
② 依頼予告 → 事情説明 → 理由提示 → (理由提示) → 依頼 → (理由提示 / 配慮) → 懇願 → (配慮) → (懇願)	11 (18.3)
③ 事情説明 → (配慮) → 依頼予告 → 理由提示 → (理由提示) → 依頼 → (理由提示 / 配慮) → 懇願 → (配慮) → (懇願)	8 (13.3)
④ 事情説明 → (配慮 / 依頼予告) → 理由提示 → → (理由提示) → 配慮 → (理由提示 / 配慮) → 依頼	6 (10.0)

⁴⁰ 黄（1988）参照。

	→ (理由提示 / 配慮)		
⑤	依頼予告 → 事情説明 → 理由提示 → (理由提示 / 配慮)		5 (8.3)
	→ 依頼 → (配慮)		
⑥	依頼予告 → 事情説明 → 理由提示 → (理由提示) → 配慮		4 (6.7)
	→ (理由提示) → 依頼 → (理由提示) → 配慮 →		
	→ (理由提示) → 懇願		
⑦	事情説明 → (配慮 / 依頼予告) → 依頼 → 理由提示		2 (3.3)
	→ (理由提示 / 配慮) → 懇願		
⑧	事情説明 → 依頼 → 理由提示		1 (1.7)

註：主要ストラテジーのうち、**黒字**は必ず書かれているもの、
 () は書かれていない場合があるもの。

上述の展開構造パターンから導き出された日本語の丁寧な依頼の手紙における主文の基本的な展開構造は、下記表 10 に示す通りである。日本文化における依頼の負荷度の大きさを反映し、相手の消極的フェイスに配慮して低姿勢で助力を願うもので、先行研究の結果とも非常に近く⁴¹、これが日本語の丁寧な依頼の手紙における主文の基本構造と言ってよいだろう。

表 10 日本語の丁寧な依頼の手紙の主文の基本的展開構造

展開構造	各構成要素の産出例
【依頼予告】	さて、今回こうしてお手紙を書かせていただいたのは、一つお願いしたいことがあるのです。
↓	
【事情説明】	実は、私、卒業後に台湾の大学院に留学することが決まりました。
↓	
【理由提示】	しかし、入学申請の際に台湾の方に身元保証人になって頂く必要があるようなのです。
↓	
【配慮】	そこで、大変恐縮なのですが、
↓	
【依頼】	私の身元保証人になって頂けないでしょうか。
↓	
【配慮】	突然のお願いで申し訳ありませんが、

⁴¹ 塩澤 (1989:194) では、日本の大学生計 82 名に書いてもらった自分と関係のある目上の人に協力を依頼する手紙の主文を分析し、基本的に「①主文への転換、②依頼の予告、③書き手の立場表明、④依頼内容の明示と希望表明、⑤詫びの表明と依頼の強調」という 5 段階を踏まえて書いていると報告している。一方、森山 (1995:96-97) では、日本の大学生 10 名に書いてもらった見知らぬ先生に論文送付を依頼する手紙を分析し、基本的に「初めの挨拶→自己紹介→事情 (依頼の理由) →前置き (恐縮の意) →依頼 (具体的内容) →終わりの挨拶 (「お詫び」やお願いの繰り返し) の順序で書かれていると報告している。

↓ 【懇願】	どうかよろしくお願い致します。
-----------	-----------------

一方、台湾人大学生の手紙については、【事情説明】【理由提示】【依頼】【先行感謝】の4つが主文の基本ストラテジーに該当する。分析の結果、下記表 11 に示した4つの展開構造パターンが確認できた。

表 11 台湾人大学生の主文の展開構造パターン (n=60)

パターン	通数 (%)
① 事情説明 → 理由提示 → (理由提示 / 配慮) → 依頼 → (理由提示 / 配慮) → (懇願) → 先行感謝	37 (61.7)
② 事情説明 → 理由提示 → (理由提示 / 配慮) → 依頼 → (配慮) → (懇願)	20 (33.3)
③ 理由提示 → 依頼	2 (3.3)
④ 理由提示 → 依頼 → 先行感謝	1 (1.7)

註：主要ストラテジーのうち、**黒字**は必ず書かれているもの、
() は書かれていない場合があるもの。

上述の展開構造パターンから導き出された中国語の丁寧な依頼の手紙における主文の基本的な展開構造は、下記表 12 に示す通りである。日本語と同じく「理由⁴²+依頼」を核としているが、人情や互助を社会規範とする中華文化では、依頼の負荷度が日本文化ほど大きくないため、【依頼予告】【配慮(詫び・恐縮型)】【懇願】など相手の消極的フェイスに向けたストラテジーがあまり使用されておらず、その分、簡単な構造となっている。また、相手が自分に協力してくれるだろうという確信や信頼感を示し、その積極的フェイスに訴える【先行感謝】が使用されるのが特徴である。

表 12 中国語の丁寧な依頼の手紙の主文の基本的展開構造

⁴² 依頼に入る前に依頼事項に関する情報を伝える【事情説明】と相手に依頼しなければならない理由を伝える【理由提示】を含む。

展開構造	各構成要素の産出例
【事情説明】 ↓	我已經考上了日本東京 A 大學日本語日本文化研究所的碩士班，
【理由提示】 ↓	校方要求在辦理入學申請時繳交一份保證書，且保證人必須擁有日本國籍並居住在東京才行。由於我實在沒有什麼日本友人，也沒有熟悉的人符合這兩個條件，
【依頼】 ↓	所以不知道是不是可以麻煩老師做我的保證人呢？
【先行感謝】	一時之間也無法充分地感謝老師，等我到了東京之後再親自去拜訪老師。

5. まとめと今後の課題

今回の調査結果は、以下のようにまとめることができる。

- (1) 日中両言語の丁寧な依頼の手紙文の大まかな流れには、「初めの挨拶→名乗り→理由→依頼→終わりの挨拶」という共通部分がある。
- (2) 主文の基本的な展開構造については、両言語とも「理由＋依頼」を核としている点は共通しているが、日本語は「【依頼予告】→【理由提示】⁴³→【配慮（詫び・恐縮型）】→【依頼】→【配慮（詫び・恐縮型）】→【懇願】」、中国語は「【理由提示】→【依頼】→【先行感謝】」という展開で違いが見られる。
- (3) 日本文化の「わきまえ」と「負債」の概念、中華文化の「関係」と「人情」の概念が、それぞれの言語の依頼ストラテジーの選択・使用に深く影響を及ぼしている。

最後に、本稿は、時間と紙幅の制約上、日中両言語の依頼の手紙文における文章構造の分析に絞った。今後は、依頼を遂行する「依頼表現」の形式について分析を行いたい。

参考文献

⁴³ 依頼事項に関する情報を伝える【事情説明】もその一部とする。

- 阿部圭子（1999）「日米のあいさつことばの輪郭—「ウチ・ソト」「上下」「男女差」「点と線」からの視点—」『国文学』第44巻第6号、pp.98-103、東京：学燈社
- 井出祥子（2006）『わきまえの語用論』東京：大修館書店
- 今井芳昭（2006）『依頼と説得の心理学—人は他者にどう影響を与えるか—』東京：サイエンス社
- 宇佐美まゆみ（2002）「ポライトネス理論の展開 1」『月刊言語』第31巻第1号、pp.100-105、東京：大修館書店
- 王志英（2005）『命令・依頼の表現—日本語・中国語の対照研究—』東京：勉誠出版
- 岡田安代・安藤美保（2001）「中国人と日本人の依頼の許容範囲」『愛知教育大学教育実践総合センター紀要』第4号、pp.113-119、愛知教育大学
- 樺島忠夫（2000）『文章構成の基本大事典』東京：勉誠出版
- 川村よし子（1991）「日本人の言語行動の特性」『日本語学』第10号第5号、pp.51-60、東京：明治書院
- 北尾謙治・北尾，S・キャスリーン（1988）「ポライトネス—人間関係を維持するコミュニケーション手段」『日本語学』第7巻第3号、pp.52-63、東京：明治書院
- 塩澤和子（1989）「手紙の文体」『講座 日本語と日本語教育 5 日本語の文法・文体（下）』pp.187-211、山口佳紀編、東京：明治書院
- 塩澤和子（1996）「個人の手紙」『文章のルールブック』pp.160-179、国文学編集部、東京：学燈社
- 滝浦真人（2008）『ポライトネス入門』東京：研究社
- 千葉明（2010）『一歩先を行く人の美しい中国語手紙の書き方』東京：国際語学社
- 林四郎（1973）「敬語行動のタイプ」『敬語講座 7 行動の中の敬語』pp.33-66、東京：明治書院

- 本間美穂（2014）「依頼発話行為研究の概観と今後の課題—台湾における日本語教育への応用を目的に—」『銘傳日本語教育』第17期、pp.41-65、銘傳大学応用日語学系
- 森山卓郎（1995）「「丁寧な依頼」のストラテジーと運用能力—依頼の手紙の書き方を例に—」『日本語学』第14巻11号、pp.94-101、東京：明治書院
- 楊雪丹・岡田安代（2003）「中日大学生の依頼文から見たポライトネス」『愛知教育大学研究報告』52（教育科学編）、pp.153-161、愛知教育大学
- 楊雪丹（2009）「パソコンメールにみられる依頼の中日対照」『桜美林言語教育論叢』第5号、pp.103-116、桜美林大学言語教育研究所
- 黃光國（1988）「人情與面子：中國人的權力遊戲」『中國人的權力遊戲』pp.7-55、黃光國編、台北：巨流
- 楊國樞（1993）「中國人的社會取向：社會互動的觀點」『中國人的心理與行為：理念及方法篇（一九九二）』pp.87-142、楊國樞・余安邦主編、台北：桂冠
- Brown, P. & Levinson, S. C. (1987) *Politeness: Some universals in Language usage*. Cambridge: Cambridge U. P.